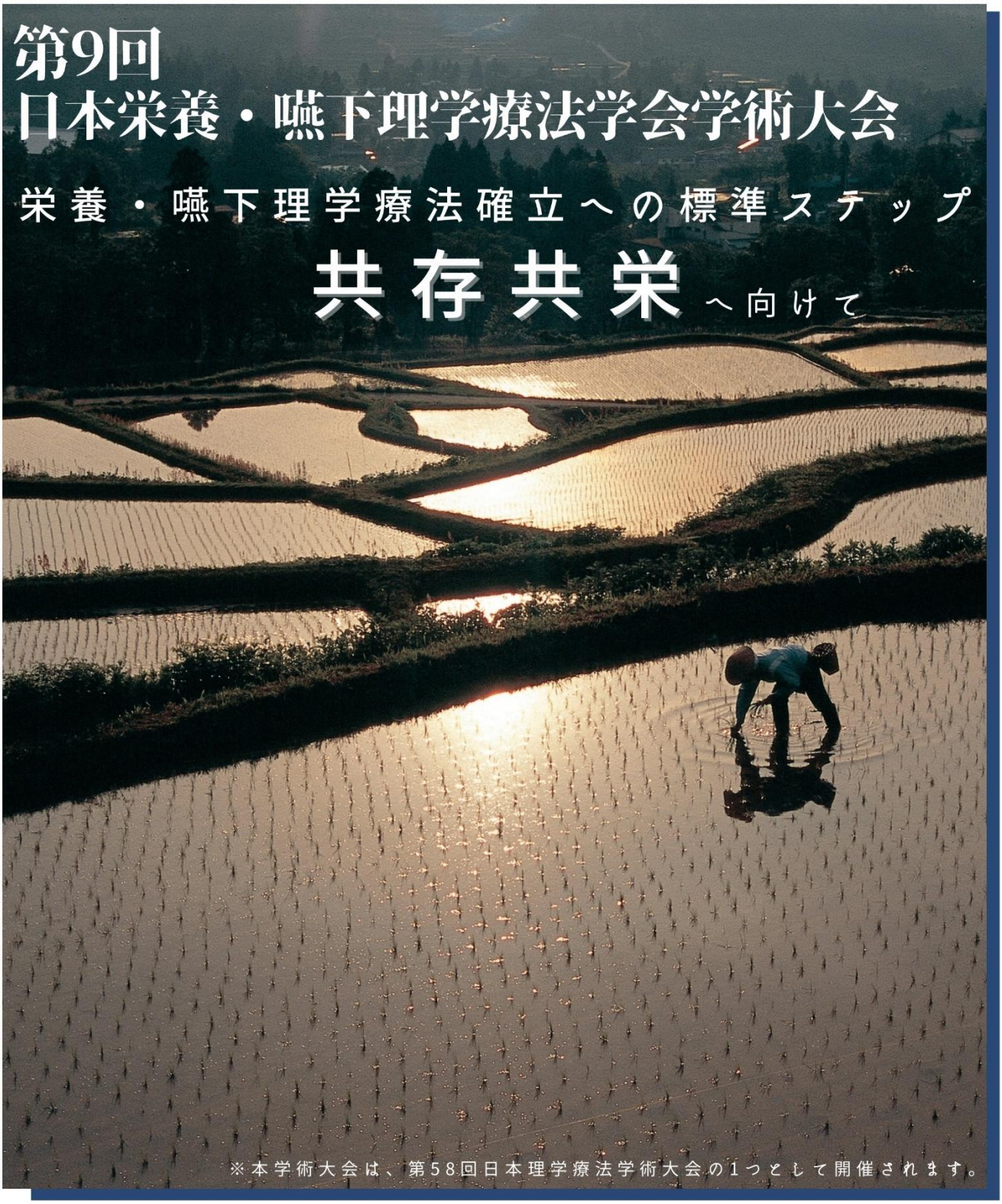
2023.9.17.SUN-9.18.MON

第58回
日本理学療法学術大会

第9回
日本栄養・嚥下理学療法学会学術大会

栄養・嚥下理学療法確立への標準ステップ

共存共栄へ向けて



※本学術大会は、第58回日本理学療法学術大会の1つとして開催されます。

大会長
井上 達朗
（新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部）

準備委員長
小川 真人
（大阪保健医療大学 保健医療学部）

会場
りゅーとぴあ
（新潟市民芸術文化会館）
〒951-8132 新潟市中央区一番堀通町3番地2

大会長ご挨拶

第 9 回日本栄養・嚥下理学療法学会学術大会

大会長　井上達朗

新潟医療福祉大学リハビリテーション学部

平素より日本栄養・嚥下理学療法学会に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。本学会はこれまで日本栄養・嚥下理学療法研究会として運営しておりましたが、この度学会化への審査を受審し、2023 年度より日本栄養・嚥下理学療法学会として船出することとなりました。この度、第 9 回日本栄養・嚥下理学療法学会学術大会を 2023 年 9 月 17 日(日)、18 日(月・祝)の 2 日間、新潟市民芸術文化会館(りゅーとぴあ)で開催いたします。

高齢化で顕在化したサルコペニアやフレイル、栄養障害が世界的なメガトレンドであることを疑う余地はありません。高齢化大国である本邦の医療・介護・福祉専門職は、栄養問題への対策を牽引するフロントランナーとしての役割を期待されています。運動・栄養介入は健康長寿社会の形成のための主軸を担う最も重要なファクターであり、本領域を専門的に扱う日本栄養・嚥下理学療法学会の役割は決して小さくありません。

本大会テーマは、「栄養・嚥下理学療法の標準ステップ-共存共栄へ向けて-」を掲げさせて頂きました。このテーマには、「栄養・嚥下理学療法とは何を示すのか」「なぜ、栄養・嚥下理学療法が必要なのか」「今後、栄養・嚥下理学療法はどのように発展していくべきなのか」、これらの問いに対して、初学者からエキスパートまでが幅広く議論を交わし、栄養・嚥下理学療法の確立に挑む機会とします。

サブテーマは、「共存共栄へ向けて」としました。栄養・嚥下理学療法は、多職種連携なくして成り立ちません。老年学、リハビリテーション学、栄養学に関わる各種関連学会とのジョイントシンポジウムを企画しております。また、食（栄養)、モノづくり、そして健康立県を掲げる新潟県の地域特性を活かした特別企画も準備しております。このように、「共存共栄」を通して国民の健康寿命・幸福寿命延伸に貢献することを目指します。

本学会史上、最も規模が大きく、豪華な学術大会になることをお約束いたします。9 月の新潟は非常に過ごしやすい季節です。是非、全国から新潟の地にお越し頂き、栄養・嚥下・理学療法についてディスカッションしましょう。

末筆ではございますが、皆様方の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

開催概要

1. 大会名

第 9 回日本栄養・嚥下理学療法学会学術大会

2. テーマ

栄養・嚥下理学療法確立への標準ステップ
共存共栄へ向けて

3. 会期

2023 年 9 月 17 日（日）～18 日（月・祝）

4. 会場

りゅーとぴあ（新潟市民芸術文化会館）
〒951-8132　新潟県新潟市中央区一番堀通町 3 番地 2

5. 大会長

井上　達朗（新潟医療福祉大学）

6. 主催

日本理学療法学会連合　日本栄養・嚥下理学療法学会

7. 後援

新潟県
新潟市
公益財団法人新潟県健康づくり財団
公益財団法人新潟県栄養士会
一般社団法人新潟県言語聴覚士会

8. 運営事務局

大阪保健医療大学　保健医療学部
〒530-0043　大阪府大阪市北区天満 1 丁目 9 番 27 号
Tel：06-6354-0091
E-mail：congress@jsptol.jspt.or.jp

9. 大会 Web サイト

http://www.jsptns2023.com

参加者へのご案内

1. 会期

会期：2023 年 9 月 17 日（日）・18 日（月・祝）

本学術大会は感染リスクを十分に考慮し、感染症予防を講じた上で現地開催といたします。

ライブ配信及びオンデマンド配信は実施いたしません。

2. 参加受付

【事前参加登録】

登録期間：6 月 17 日（土）～9 月 15 日（金）

※日本理学療法士協会会員の方

参加費の決済は、日本理学療法士協会マイページからの決済となります。 日本理学療法士協会マイページからの学術大会の参加費支払は、「クレジットカード決済」と「口座振替」の両方の支払い方法が選べるようセミナー登録設定しております．振込用紙（コンビニ・郵便局専用払込票）での参加費支払はシステム上お受けしておりません。 ただし、参加申込者ご本人の支払い方法に口座情報のご登録が無い場合は、「口座振替」を選べない仕様になっております。 口座情報をご登録いただけたら選択できるようになりますが、登録には 1～2 カ月程度要しますため「口座振替」による学術大会のお申し込みには間に合わない可能性がございます。その場合は「クレジットカード決済」でのお支払いのみになります。あらかじめご了承ください。

セミナー番号：113185

※理学療法士（協会非会員）、理学療法士以外の他職種、学生の方

Peatix からの参加登録となります。お支払いはクレジットカード決済のみとなりますことを予めご了承ください。詳細は学術大会ホームページの Peatix 説明欄をご確認ください。

協会非会員の理学療法士の方は、当日参加登録のみとなります。

他職種の方は学術大会ホームページ内の医療従事者証明書の提出が必要となります。

学生の方は、「事前」、「当日」ともに参加登録をお願いいたします。また、当日受付で学生証の確認を行いますので、必ずお持ちください。お持ちいただけない場合、当日参加料を徴収する場合がございます。なお、理学療法士免許を有している大学院生は「学生」の身分では参加できません。

【当日参加登録】

当日参加登録の方は参加登録受付にて行います。

【料金区分】

学会参加費	事前参加登録	当日参加登録
日本理学療法士協会　会員		
本学会会員　専門会員 A	8000 円	9000 円
本学会会員　一般会員	9000 円	10000 円
本学会非会員	9000 円	10000 円
日本理学療法士協会　非会員		
本学会会員　専門会員 B	8000 円	9000 円
理学療法士	―	11000 円
理学療法士以外の他職種	9000 円	10000 円
学生	無料	無料

3. 領収書

※日本理学療法士協会会員の方

参加費の領収書発行は、日本理学療法士協会マイページからご自身で行っていただきます。

※日本理学療法士協会非会員の方

参加費の領収書発行は、Peatix からご自身で行っていただきます。なお Peatix の領収書には公印の押印がございません。また Peatix の領収データ以外の形式での領収書は発行できません。予めご了承ください。

4. ランチョンセミナー

当日、受付にて申し込みが必要となります。

受付にて学会ロゴのシールを配布します。参加証に貼付し、セミナー会場へお越しください。

5. 企業展示

会期中、2 階ホワイエに企業展示ブースを設置いたします。

6. クローク

貴重品のお預かり、時間外のご利用、日をまたぐお預かりはできませんので、予めご了承ください。

場所	日時	
2 階　ホワイエ	9 月 17 日（土）	8：00～18：30
	9 月 18 日（月・祝）	8：00～17：00

7. 参加ポイント

【日本理学療法士協会会員の方】

JPTA アプリをお持ちの方は、会場に掲示されている QR コードをアプリにて読み込むことで以下の参加ポイントが認定されます。参加者専用サイトに掲示される QR コードは読み込めませんので、ご注意ください。ご自身が参加登録した際のセミナー番号をご確認のうえ、正しい QR コードをアプリで読み込んでください。アプリをお持ちでない場合、ポイント申請は出来ませんので、十分ご注意ください。

※登録理学療法士　更新

140　リハビリテーション栄養　17.5 ポイント

※認定/専門理学療法士　更新

学術大会　17.5 点

8. お子様連れでのご来場について

本学会では託児所を準備しております。同伴者やお子様専用のネームホルダーをご用意しますので、受付にてお声がけください。お子様の監督責任は保護者の方にお願いいたします。館内設備などの詳細については、りゅーとぴあのホームページ（https://www.ryutopia.or.jp/）をご覧ください。

9. その他

会場内は携帯電話をマナーモードに設定してください。

会場内での無許可の録音、写真撮影、ビデオ撮影、講演内容の無断転用・複製は一切禁止いたします。

会場内は禁煙です。

ノーネクタイ等のクールビズでお越しください。

座長・審査員・発表者（講師・演者）へのご案内

1.　座長・審査員へのご案内

①　発表は、時間厳守でお願いいたします。

	発表形式	発表	質疑応答
セレクション演題	口述	8 分	4 分
U30 セレクション演題	口述	7 分	3 分
一般口述	口述	7 分	3 分
シンポジウム・講演等	事前に事務局より通知された発表時間をご確認ください		

②　参加受付を済ませた後、座長・審査員受付へお越しください（座長・審査員の方も、参加登録が必要です)。担当されるセッション開始の 1 時間前までに座長・審査員受付をお済ませください。なお、朝 9 時からのセッションにつきましては、20 分前までに受付をお済ませください。

③　座長・審査員はご担当のセッション開始 10 分前までに次座長席にお越しください。

2.　演者へのご案内

患者の個人情報に抵触する可能性のある内容は、患者あるいはその代理人からインフォームド・コンセントを得た上で、患者の個人情報が特定されないよう十分留意して発表してください。

- 学会場受付にて参加受付を済ませた後、必ず演者受付へお越しください。発表されるセッション開始の 1 時間前までに演者受付をお済ませください。なお、朝 9 時からのセッションにつきましては、20 分前までにお済ませください。
- 発表データ（**＜データ受付について＞**参照)の 動作確認をお済ませの上、ご発表の 10 分前までに発表会場の次演者席にご着席ください。なお、**8 時 30 分から受付開始後は、朝 9 時からのセッションの演者受付ならびに動作確認を優先させて頂きますのでご了承ください。**
- 発表スライドの操作はご自身でお願いいたします。また、発表者ツールはご使用できませんのでご了承ください。ログイン後からセッション終了まで、技術スタッフがスライドの共有やマイクの調整など、サポートいたします。

＜データ受付について＞

指定演題および口述演題を発表する方の発表データは、**事前に事務局から通知されているメールより期日までにご登録ください。**ご提出時に入力いただいたメールアドレスへ登録内容が表示されたメールが届きます。こちらの確認メールをもって、受領通知に代えさせていただきます。事務局でファイルを確認後、確認等でご連絡させていただく場合がございます。提出されたファイルは事務局で責任を持ち、当日会場に準備させていただきますが、念のため、**USB メモリーなどでご自身の発表スライドをお持ちください。**

提出期限：9 月 15 日（金）
提出後の修正：確認メールの「回答を編集」からご自身で登録内容の変更をお願いいたします。その際、一度アップロードいただいた資料は削除できませんので、最新のファイルを追加いただくようにお願い致します（ファイル名を最新版であることが分かるように明記してください)。提出期限以降の修正は、原則として受け付けておりませんが、諸事情により修正が必要な方は第 9 回日本栄養・嚥下理学療法学会学術大会事務局（congress@jsptol.jspt.or.jp）まで、事前にご連絡ください。

- スライドが登録・修正されたことをお知らせする確認メールが 1 日以上経過しても届かない場合は、ご登録のメールアドレスが間違っている可能性がありますので、メールにて第 9 回日本栄養・嚥下理学療法学会学術大会事務局（congress@jsptol.jspt.or.jp）までご連絡ください。
- 発表されるセッション開始の 1 時間前までに演者受付にて発表スライドの動作確認をお済ませください。なお、朝 9 時からのセッションにつきましては、20 分前までにお済ませください (**8 時 30 分から受付開始後、9 時からのセッションの演者受付ならびに動作確認を優先致します**)。
- 提出いただいたファイルは学会終了後、準備委員会が責任をもって破棄させていただきます。

スライド試写

日程	受付時間	受付場所
9 月 17 日（日）	8：30　～　17：30	データ受付
9 月 18 日（月・祝）	8：30　～　15：00	データ受付

＜発表データついて＞

- プレゼンテーションのファイル名は以下のように保存してください。

セッション名_演題番号_筆頭演者名（例：セレクション演題 1_SL-01_栄養太郎）

- 大会で用意している PC の OS は Windows10、アプリケーションソフトは Microsoft PowerPoint2019 となっております。
- 発表データのスライドサイズは 16：9 を推奨します。
- PowerPoint に標準搭載されているフォントのみ使用可能です。
- 大会の PC にコピーしたデータは、会期終了後に大会主催者側で責任を持って削除いたします。

＜各発表形式について＞

① 指定演題

- スライドの枚数に指定はございません。
- 発表時間、質疑時間、ならびに討論の有無は事前に事務局より通知された時間をご参照ください。

② 口述発表（各セレクション演題、一般口述）

- スライドの枚数に指定はございません。
- 発表データのスライドサイズは 16：9 を推奨いたします。

＜利益相反（COI）の申告について＞

利益相反（Conflict of Interest：COI）に関する開示をお願いいたします。タイトルスライドの次のスライドにて COI の有無を公表して下さい。
※日本理学療法学術大会利益相反について
http://jspt.japanpt.or.jp/shinsa/coi/index.html
https://www.jspt.or.jp/upload/jspt/obj/files/shinsa/jspt_coi_20220310%20(1).pdf

＜各セレクション演題にノミネートされた皆様＞

- セレクション演題、U30 セレクション演題に選定された皆様、この度はおめでとうございます。各専門領域の査読委員による厳正なるダブルブラインド査読の結果、査読点数の高い演題が各セレクション演題へ選出されました。選出された演題の中から特に優れた演題について、表彰を行います。
- 学術集会 2 日目、9 月 18 日（月・祝）16 時 30 分～、メイン会場にて表彰式を行います。必ず表彰式への参加をお願い致します。

日程表

第1日目：9/17(日)

	8:00	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00	18:30	19:00
メイン会場 868席			開会式	ジョイントシンポジウム 1			大会長特別企画			ランチョン セミナー 1			特別講演 1		ジョイントシンポジウム 2			セレクション演題		大会長 講演	特別企画		
第2会場 130席				一般演題 口述 1 評価・介入		一般演題 口述 2 内部障害疾患		一般演題 口述 3 整形外科疾患					研究推進特別企画		教育セミナー 1		一般演題 口述 4 U30セッション		一般演題 口述 5 症例報告①				

第2日目：9/18(月・祝)

	8:00	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00
メイン会場 868席				ジョイントシンポジウム 3			特別講演 2			ランチョン セミナー 2	新潟 観光 大使	市民公開講座			教育セミナー 2		新潟大会特別企画	表彰式	閉会式		
第2会場 130席				U30 セレクション演題		一般演題 口述 6 脳血管疾患						一般演題 口述 7 症例報告②		一般演題 口述 8 嚥下		一般演題 口述 9 体組成評価					

大会長講演　　メイン会場　9 月 17 日 17:30～18:00

栄養・嚥下理学療法確立への標準ステップ -共存共栄へ向けて-

井上達朗
新潟医療福祉大学リハビリテーション学部

大会長特別企画　　メイン会場　9 月 17 日 10:40～12:10

座長：椿　淳裕（新潟医療福祉大学）
　　井上達朗（新潟医療福祉大学）

「健康立県にいがた」の目指すヘルス実装 -にいがたの強みを活かした産官学連携-

新潟県の「健康立県」実現への取組について

清田義和
新潟県福祉保健部健康づくり支援課

おいしさ、思いやり、いつもいっしょに。

健康増進総合支援企業を目指した研究開発

前島大輔
株式会社ブルボン先端研究所

口腔機能測定器「健口くん」によるオーラルディアドコキネシス測定

堀　幹雄
竹井機器工業株式会社企画部

新潟で取り組むフレイル予防プロジェクト

井上達朗
新潟医療福祉大学リハビリテーション学部

特別講演 1　　メイン会場　9 月 17 日 13:30～14:30

座長：小西信子（国立がん研究センター）

高齢がん患者に対するリハビリテーション診療

辻　哲也
慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室

特別講演 2　　メイン会場　9 月 18 日 10:40～11:40

座長：小川真人（大阪保健医療大学）

最新のエビデンスから見た心不全患者の疾病管理～運動・栄養管理の観点から～

神谷健太郎
北里大学医療衛生学部

教育セミナー1　第 2 会場　9 月 17 日 14:40～15:40

座長：鈴木裕也（製鉄記念八幡病院）
　　森下元賀（令和健康科学大学）

栄養・嚥下理学療法の評価と実践

栄養理学療法の評価

立松典篤
名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻

ICU の重症患者における栄養理学療法の実践

松嶋真哉
杏林大学保健学部リハビリテーション学科理学療法学専攻

嚥下理学療法の評価

小川真人
大阪保健医療大学保健医療学部

嚥下理学療法の実践

森下元賀
令和健康科学大学リハビリテーション学部理学療法学科

教育セミナー2　メイン会場　9 月 18 日 14:20～15:20

座長：高橋浩平（田村外科病院）
　　飯田有輝（豊橋創造大学）

【エキスパートからの提言】　病態別栄養理学療法の最前線

脳卒中の栄養理学療法

長野文彦
熊本リハビリテーション病院サルコペニア・低栄養研究センター

大腿骨近位部骨折に対する栄養理学療法

飛山義憲
順天堂大学保健医療学部理学療法学科

呼吸器疾患における栄養理学療法

宮崎慎二郎
KKR 高松病院リハビリテーションセンター

病態別栄養理学療法の最前線（がん）

森下慎一郎
福島県立医科大学保健科学部理学療法学科

ジョイントシンポジウム 1：日本老年療法学会　　メイン会場　9 月 17 日 9:00～10:30

座長：土井剛彦（国立長寿医療研究センター）
立松典篤（名古屋大学）

老年療法と栄養・嚥下理学療法の共存共栄 -疾患重症化予防を目指して-

機能回復・重症化予防における身体活動量の重要性と栄養との関連

木村鷹介
関東学院大学理工学部健康学系
奉優会枝川高齢者在宅サービスセンター

障害軌跡を考慮した脳卒中重症化予防戦略

野添匡史
関西医科大学リハビリテーション学部

急性期脳卒中患者の疾患重症化予防を目指して ―サルコペニアに着目して―

佐藤陽一
新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院リハビリテーション技術科

高齢入院患者における栄養・嚥下理学療法

赤澤直紀
徳島文理大学保健福祉学部理学療法学科

ジョイントシンポジウム 2：日本サルコペニア・フレイル学会　　メイン会場　9 月 17 日 14:40～16:10

座長：野添匡史（関西医科大学）
小山真吾（順天堂東京江東高齢者医療センター）

医療機関におけるサルコペニア管理のベストプラクティス

入院と外来におけるサルコペニア評価と対応

前田圭介
愛知医科大学栄養治療支援センター

入院高齢者のサルコペニアは予防・改善し得るのか？

井上達朗
新潟医療福祉大学リハビリテーション学部

ジョイントシンポジウム 3：日本リハビリテーション栄養学会　　メイン会場　9 月 18 日 9:00～10:30

座長：藤原　大（坂総合病院）
山田　実（筑波大学）

ポジションペーパーから紐解くリハ栄養と栄養・嚥下理学療法の共存共栄

栄養・嚥下理学療法における診断推論の重要性

若林秀隆
東京女子医科大学大学院医学研究科リハビリテーション科学講座

リハビリテーション栄養学会のポジションペーパーと栄養・嚥下・リハビリテーション

前田圭介
愛知医科大学栄養治療支援センター

病態別栄養理学療法ポジションペーパーからみる実践と今後

宮崎慎二郎
KKR 高松病院リハビリテーションセンター

栄養領域における理学療法の役割

飯田有輝
豊橋創造大学保健医療学部

新潟大会特別企画　　**メイン会場　9 月 18 日 15:30～16:30**

座長：椿　淳裕（新潟医療福祉大学）
宮崎慎二郎（KKR 高松病院）

TEAM NIIGATA で考える！病期に応じた栄養・嚥下理学療法

－COPD を例にした症例報告リレー－

急性期の栄養・嚥下理学療法

岩崎　円
新潟大学医歯学総合病院医療技術部リハビリテーション部門

栄養嚥下を考慮したリハビリテーション計画 - COPD 回復期において -

木賀　洋
新潟県立中央病院リハビリテーション科

生活期における栄養・嚥下理学療法

丸山小夏
新潟臨港病院リハビリテーション科

理学療法と歯科の観点

道見　登
新潟県厚生連新潟医療センター歯科・口腔外科

研究推進特別企画　　**第 2 会場　9 月 17 日 13:30～14:30**

座長：永井宏達（兵庫医科大学）
飛山義憲（順天堂大学）

ナイスステップな臨床研究 -U30・一般病院からの挑戦-

一般病院で臨床研究を始めるためのワンステップ

小島　将
嬉泉病院リハビリテーション科

研究と臨床の共存共栄ー一般病院からの挑戦ー

大坪拓朗
西記念ポートアイランドリハビリテーション病院リハビリテーション科
神戸学院大学大学院総合リハビリテーション学研究科

急性期病院からの挑戦-これまでのステップと現在の取り組み-

阿部貴文
新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院リハビリテーション技術科

ランチョンセミナー1　　メイン会場　9 月 17 日 12:20～13:20

座長：井上達朗（新潟医療福祉大学）

リハ栄養と臨床研究

吉村芳弘
熊本リハビリテーション病院サルコペニア・低栄養研究センター
協賛：大塚製薬工場

ランチョンセミナー2　　メイン会場　9 月 18 日 11:50～12:50

座長：山田　実（筑波大学）

栄養・嚥下理学療法における診断推論

若林秀隆
東京女子医科大学大学院医学研究科リハビリテーション科学講座
協賛：株式会社クリニコ

市民公開講座　　メイン会場　9 月 18 日 13:10～14:10

座長：井上達朗（新潟医療福祉大学）

敬老の日特別企画：健脚で口福な人生 100 年時代へ

山田　実
筑波大学

一般演題：セレクション　　メイン会場　9 月 17 日 16:20～17:20

座長：永井宏達（兵庫医科大学）
小川真人（大阪保健医療大学）

セレクション-1

回復期脳卒中患者における十分なたんぱく質摂取が骨格筋機能特性の改善に及ぼす影響

○田中周 1,2)、鈴木瑞恵 3)、木村鷹介 4)、小山真吾 2)、増田浩了 2)、小島巌 2)、鈴川活水 5)、高杉健一郎 5)、木田亮輔 2)、三松俊也 2)、佐藤圭悟 2)、山本悠慎 2)、山田実 3)

1)東京工科大学医療保健学部　リハビリテーション学科　理学療法学専攻、2)筑波大学大学院人間総合科学学術院　人間総合科学研究群、3)筑波大学人間系、4)関東学院大学理工学部　健康・スポーツ計測コース、5)武蔵村山病院リハビリテーションセンター

セレクション-2

高齢脳卒中者における Body mass index と ADL 回復不良の U 字の関連性

○木村鷹介 1,2)、音部雄平 3)、鈴木瑞恵 4)、田中周 5)、久住治彦 6)、山本晟矢 6)、三枝洋喜 6)、吉村友宏 6)、山田実 4)

1)関東学院大学理工学部健康系、2)奉優会枝川高齢者在宅サービスセンター、3)大阪公立大学医学部リハビリテーション学科、4)筑波大学人間系、5)東京工科大学保健医療学部リハビリテーション学科、6)筑波大学大学院人間総合科学学術院

セレクション-3

高齢肺結核患者における入院中死亡を予測する因子

○垣内優芳 1)、井上達朗 2)、小林光 1)、海老名葵 1)、中野元 1)、筧哲也 1)、田中利明 1)、西原賢在 3,4)

1)神戸市立西神戸医療センターリハビリテーション技術部、2)新潟医療福祉大学リハビリテーション学部理学療法学科、3)神戸市立西神戸医療センターリハビリテーション科、4)神戸市立西神戸医療センター脳神経外科

セレクション-4

血液透析患者の血清データを用いた簡便評価の組み合わせは Protein-energy wasting の予測精度を向上させる

○小島将 1,2)、臼井直人 1,3)、上畑昭美 4)、稲津昭仁 5)、椿淳裕 2)

1)嬉泉病院リハビリテーション科、2)新潟医療福祉大学大学院医療福祉学研究科、3)順天堂大学大学院医学系研究科 腎臓内科学講座、4)嬉泉病院循環器内科、5)嬉泉病院腎臓内科

セレクション-5

新たな骨格筋量指標の開発を目的とした母指球筋 index の提案とカットオフ値の算出

○原卓也 1)、井上達朗 1)、堀田一樹 2)、和泉徹 3)、神谷健太郎 2)、椿淳裕 1)、藤田卓仙 4)、宮田裕章 4)

1)新潟医療福祉大学リハビリテーション学部理学療法学科、2)北里大学大学院医療系研究科、3)医療法人　恒仁会　新潟南病院内科・循環器内科、4)慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室

一般演題：U30 セレクション　　第 2 会場　9 月 18 日 9:00～10:00

座長：本田寛人（四條畷学園大学）
小西信子（国立がん研究センター）

U30 セレクション-1

地域在住中高齢者の骨格筋量指標 Sonographic Thigh Adjustment Ratio (STAR)のカットオフ値算出と妥当性の検討

○田中希弥 1)、井上達朗 1)、堀田一樹 2)、和泉徹 3)、神谷健太郎 2)、椿淳裕 1)、藤田卓仙 4)、宮田裕章 4)

1)新潟医療福祉大学リハビリテーション学部理学療法学科、2)北里大学大学院医療系研究科、3)医療法人　恒仁会　新潟南病院内科・循環器内科、4)慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室

U30 セレクション-2

急性期脳卒中における合併症発生への早期リハビリテーションと早期エネルギー摂取の影響:後向き観察研究

○村田裕康 1)、坂本勇斗 1)、石田りか 1)、桑原万由子 1)

1)杏林大学医学部付属病院リハビリテーション室

U30 セレクション-3

CT 画像から測定した骨格筋量と SMI、身体機能、肺機能との関係

○大竹康平 1,2)、三栖翔吾 3)、藤川孝 1)、永谷智里 1)、石川朗 2)

1)神戸市立医療センター西市民病院リハビリテーション技術部、2)神戸大学大学院保健学研究科、3)甲南女子大学看護リハビリテーション学部

U30 セレクション-4

慢性保存期腎臓病患者のタンパク質摂取量とフレイルおよびプレフレイルの関係

○寺澤怜未 1)、白井信行 1)、山本卓 2)、大澤豊 3)

1)新潟臨港病院リハビリテーション科、2)新潟大学医歯学総合病院血液浄化療法部、3)新潟臨港病院内科

U30 セレクション-5

パーキンソン病患者における運動療法が食後の血圧に及ぼす影響の検討―予備的研究―

○大舘隼 1,2)、井上達朗 2)、飯塚裕介 1)、鈴木康史 1)、上中梨帆 1)、甘粕康太 2,3)、前川健一郎 2,4)、田村由馬 1)、渡邉由佳 5)

1)獨協医科大学日光医療センターリハビリテーション部、2)新潟医療福祉大学大学院医療福祉学研究科保健学専攻理学療法学分野、3)信楽園病院リハビリテーション科、4)神戸リハビリテーション病院リハビリテーション部、5)獨協医科大学日光医療センター脳神経内科

U30 セレクション-6

AWGS と ISarcoPRM によるサルコペニアはどちらが歩行能力を反映しやすいか？－運動器疾患における検討－

○池本大輝 1)、森川雄生 1)、岡村将輝 1)、黒田琴葉 1)、藤沢直輝 1)、寺田奈穂 1)、徳田光紀 1,2)

1)平成記念病院リハビリテーション課、2)畿央大学大学院健康科学研究科

一般演題：口述 1 評価・介入　　第 2 会場　9 月 17 日 9:00～9:50

座長：小熊英敏（北海道大学病院）
梅井凡子（県立広島大学）

口述 1-1

回復期高齢サルコペニア患者におけるサルコペニア改善の予測因子とカットオフ値の算出

○大坪拓朗 1,2)、野添匡史 3)、金居督之 4)、上野勝弘 1)、仲山舞 1)、森本陽介 1,2)、小澤修一 5)

1)西記念ポートアイランドリハビリテーション病院リハビリテーション科、2)神戸学院大学大学院総合リハビリテーション学研究科、3)関西医科大学リハビリテーション学部、4)金沢大学融合研究域融合科学系、5)西記念ポートアイランドリハビリテーション病院内科

口述 1-2

心不全急性増悪患者における嚥下機能低下の実状及び嚥下の回復に与える因子

○安藤可織 1)、池田雄輝 1)、小幡賢吾 1)、福家聡一郎 2)

1)岡山赤十字病院リハビリテーション科、2)岡山赤十字病院循環器科

口述 1-3

高齢心不全患者において body mass index 低値と運動習慣がないことは予後を悪化させる

○小澤哲也 1)、出岡有希 1)、佐藤彩菜 1)、平田萌々花 1)、佐藤滉晴 1,2)、内山祈 1,2)、善波雄一郎 1)、匹野晴香 1)、佐藤隆一 1)、井上達朗 2,3)、霜田直史 1,4)、成毛崇 5)、弓削大 5)

1)小田原市立病院リハビリテーション室、2)新潟医療福祉大学大学院医療福祉学研究科、3)新潟医療福祉大学リハビリテーション学部理学療法学科、4)東海大学医学部専門診療学系リハビリテーション科学、5)小田原市立病院循環器内科

口述 1-4

舌圧発揮時の舌筋ならびに舌骨上筋群活動の経時変化

○板離子 1)、落合勇人 1)、真柄仁 1)、辻村恭憲 1)、井上誠 1)

1)新潟大学大学院医歯学総合研究科摂食嚥下リハビリテーション学分野

口述 1-5

嚥下内視鏡検査（VE）を用いた誤嚥性肺炎高齢者への介入方策

○羽尾直仁 1)、和泉徹 1)、小幡裕明 1)、石田雅樹 1)

1)新潟南病院診療部

一般演題：口述 2 内部障害　　第 2 会場　9 月 17 日 10:00～11:10

座長：福島卓矢　（関西医科大学）
佐藤聡見　（福島県立医科大学）

口述 2-1

抗がん剤治療を行っている非小細胞肺癌患者のエネルギー摂取量が骨格筋量及び身体機能に与える影響

○白土健吾 1)、奥野将太 1)、江田千種 2)、川満謙太 1)、木戸孝史 1)、江藤貴子 1)、馬場麻規子 3)、山下智弘 4)、飛野和則 5)

1)株式会社麻生飯塚病院リハビリテーション部、2)株式会社麻生飯塚病院栄養部、3)株式会社麻生飯塚病院薬剤部、4)株式会社麻生飯塚病院リハビリテーション科、5)株式会社麻生飯塚病院呼吸器内科

口述 2-2

血液透析患者の転倒頻度は骨格筋量より筋力と身体機能が関連する

○白井信行 1)、山本卓 2)、大澤豊 3)、椿淳裕 4)、森下慎一郎 5)、成田一衛 2)

1)新潟臨港病院リハビリテーション科、2)新潟大学大学院医歯学総合研究科腎・膠原病内科、3)新潟臨港病院内科、4)新潟医療福祉大学理学療法学科、5)福島県立医科大学理学療法学科

口述 2-3

気管竜骨レベルで評価した骨格筋量によるサルコペニアが特発性肺疾患患者の長期予後へ与える影響

○藤川孝 1)、近藤心 2)、斎藤貴 2)、井上達郎 3)、三栖翔吾 4)、大竹康平 1)、小野玲 5)

1)神戸市立医療センター西市民病院リハビリテーション技術部、2)徳島大学病院リハビリテーション部門、3)新潟医療福祉大学理学療法学科、4)甲南女子大学看護リハビリテーション学部、5)国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所国立健康・栄養研究所身体活動研究部

口述 2-4

大腸がん術後合併症の予測に血清プレアルブミンは有用である：傾向スコアマッチングによる検討

○守川恵助 1,2)、武村裕之 1)、北山可奈 1)、稲葉匠吾 1)、今岡晴香 1)、橋爪裕 1)、鈴木優太 1)、西川涼太 1)、田平一行 2)
1)松阪市民病院リハビリテーション室、2)畿央大学大学院健康科学研究科

口述 2-5

血液透析患者における悪液質の有症率および QOL の関連

○八木拓磨 1,2,3)、井上達朗 2)、小川真人 2)、岡村正嗣 2)、白土健吾 2)、白井信行 2)、平山昌男 1)、平郡康則 1)、谷宮尚樹 1)、岡田梨沙 1)、井上茂樹 3)
1)服部病院リハビリテーション室、2)Change Nutrition from RehabilitationVirtual Laboratory、3)吉備国際大学大学院保健科学研究科

口述 2-6

循環器疾患患者の回復期リハビリテーション病棟における入院時エネルギー摂取量は退院時 FIM と関連する

○柳瀬友喜 1,2)、松尾知洋 1,2)、大坪拓朗 1,2)、上野勝弘 1)、佐々木真希 3)、剱物英子 3)、小澤修一 4)、森本陽介 1,2,5)
1)西記念ポートアイランドリハビリテーション病院リハビリテーション科、2)神戸学院大学大学院総合リハビリテーション学研究科、3)西記念ポートアイランドリハビリテーション病院循環器内科、4)西記念ポートアイランドリハビリテーション病院内科、5)神戸学院大学総合リハビリテーション学部

口述 2-7

血液透析患者におけるサルコペニアと IADL の関連

○岡田梨沙 1)、平山昌男 1)、八木拓磨 1)、平郡康則 1)、谷宮尚樹 1)
1)医療法人社団一陽会　服部病院リハビリテーション室

一般演題：口述 3 整形疾患　　第 2 会場　9 月 17 日 11:20～12:10

座長：柳田頼英（長崎大学）
本間大介（新潟万代病院）

口述 3-1

大腿骨近位部骨折術後患者における入院中の食事摂取量は退院時歩行能力と関連する

○小林光 1)、永井宏達 2)、日高正巳 2)、森明子 2)、佐久間香 2)、荻野智之 2)、島村康弘 3)
1)神戸市立西神戸医療センターリハビリテーション技術部、2)兵庫医科大学リハビリテーション学部　理学療法学科、3)神戸市立医療センター西市民病院栄養管理室

口述 3-2

回復期リハ病棟における大腿骨近位部骨折患者の入院時身体活動量は退院時 ADL を予測できる

○前川健一郎 1,2)、西脇寿弥 1)、八木拓磨 3)、甘粕康太 2,4)、大舘隼 2,5)、沖山努 1)、井上達朗 2,6)
1)神戸リハビリテーション病院リハビリテーション部、2)新潟医療福祉大学大学院保健学専攻理学療法分野、3)服部病院回復期リハビリテーション室、4)信楽園病院リハビリテーション科、5)獨協医科大学日光医療センターリハビリテーション部、6)新潟医療福祉大学リハビリテーション学部 理学療法学科

口述 3-3

回復期病棟入院高齢者のオステオサルコペニアは機能的転帰と関連しなかった

○清水昭雄 1,3)、井上達朗 2,3)、前田圭介 3)
1)長野県立大学健康発達学部食健康学科、2)新潟医療福祉大学リハビリテーション学部、3)国立長寿医療研究センター老年内科

口述 3-4

大腿骨近位部骨折患者の口腔機能が術後 2 週時の歩行能力に与える影響

○菅原翼 1,2)、椿淳裕 2)、井上達朗 2)、本間大介 1)、高橋忍 3)、白井信行 4)、佐藤朗 5)
1)新潟万代病院リハビリテーション科、2)新潟医療福祉大学大学院医療福祉学研究科 保健学専攻 理学療法学分野、3)新潟臨港病院歯科、4)新潟臨港病院リハビリテーション科、5)新潟臨港病院整形

口述 3-5

高齢者における人工膝関節全置換術施行患者の術前皮下脂肪厚は術後 3 ヶ月後の術後 QOL と関係する

○折内英則 1)、三森由麻 1)

1)一財）総合南東北病院リハビリテーション科

一般演題：口述 4 U30　　第 2 会場　9 月 17 日 15:50～16:50

座長：佐藤陽一（新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院）

北垣和史（四條畷学園大学）

口述 4-1

リハ栄養の実践を促す要因は何か？－リハ栄養の実践力向上にむけた要因の調査と取り組みの検討－

○酒井一輝 1)、細堀未紀子 1)、篠田佑実 1)、今枝瞳 1)、平岡大輝 1)、磯村隆倫 1)

1)医療法人医仁会さくら総合病院リハビリテーションセンター

口述 4-2

母指球筋に着目した新たな骨格筋量指標の開発 -地域在住中高齢者を対象とした横断研究-

○酒井悠生 1)、井上達朗 1)、堀田一樹 2)、和泉徹 3)、神谷健太郎 2)、椿淳裕 1)、藤田卓仙 4)、宮田裕章 4)

1)新潟医療福祉大学リハビリテーション学部理学療法学科、2)北里大学大学院医療系研究科、3)医療法人　恒仁会　新潟南病院内科・循環器内科、4)慶応義塾大学医学部医療政策・管理学教室

口述 4-3

頸椎除圧固定術後の嚥下障害に対する 2 週間の嚥下リハビリテーションの効果について

○内山祈 1,2)、井上達朗 2)、小澤哲也 1)、大山由廉 1)、長田きらら 1)、中山滋 1)、佐藤隆一 1)、霜田直史 1,3)、轟木絢貴 4)、野寄浩司 4)

1)小田原市立病院リハビリテーション科、2)新潟医療福祉大学大学院医療福祉学研究科、3)東海大学医学部専門診療学系リハビリテーション科学、4)小田原市立病院整形外科

口述 4-4

筋炎患者における入院中の体重と栄養状態の推移：後ろ向きコホート研究

○渡邉拓 1)、野々山忠芳 1)、早瀬美香 2)、藏川真紀子 2)、松尾英明 1)、久保田雅史 3)、井上大聖 1)、松村真裕美 1)、佐藤友理 1)、榎本崇一 4)、濱野忠則 4)、坪川操 1)

1)福井大学医学部附属病院リハビリテーション部、2)福井大学医学部附属病院栄養部、3)金沢大学医薬保健研究域保健学系理学療法科学講座、4)福井大学医学部附属病院脳神経内科

口述 4-5

超音波筋肉可視化装置を用いた大腿四頭筋断面積測定の信頼性について～高齢入院患者における検討～

○西郷聡 1)、村上茂史 1)、野添匡史 2)、坂本利惠 1)、道免和久 3)

1)兵庫医科大学ささやま医療センターリハビリテーション室、2)関西医科大学リハビリテーション学部理学療法学科、3)兵庫医科大学リハビリテーション医学

口述 4-6

回復期リハビリテーション病棟在院期間中におけるサルコペニア有病率の縦断的変化と特徴

○四十万直起 1,2)、吉池章吾 1)、依田英樹 1)、百瀬公人 2)

1)JA 長野厚生連佐久総合病院理学療法科、2)信州大学大学院医学系研究科

一般演題：口述 5 症例報告①　　第 2 会場　9 月 17 日 17:00～17:50

座長：白土健吾（麻生飯塚病院）

村川佳太（住友病院）

口述 5-1

コロナ禍での運動と BCAA の摂取は筋肉量と体脂肪量にどのような影響があるのか？

○中江誠 1)

1)青寿会 武久病院リハビリテーション部

口述 5-2

アルコール性非代償性肝硬変によりサルコペニアを呈した症例に対する運動療法と栄養療法を併用した介入

○久保田光雲 1)、横山絵里子 1)
1)秋田県立リハビリテーション・精神医療センターリハビリテーション科

口述 5-3

身体活動量の高い慢性閉塞性肺疾患患者に，活動量維持を目的に栄養療法，酸素デバイスの検討を行った一症例

○東山鈴佳 1)、大竹康平 1)、三栖翔吾 1,2)、藤川孝 1)、田口真衣 1)、永谷智里 1)
1)神戸市立医療センター　西市民病院リハビリテーション技術部、2)甲南女子大学看護リハビリテーション学部 理学療法学科

口述 5-4

顎関節症に伴う口腔機能障害に対して，運動療法を中心にした対応で症状改善がみられた一症例

○島田淳 1)
1)医療法人社団グリーンデンタルクリニック歯科

口述 5-5

食道拡張用バルーンカテーテルを使用した嚥下訓練の経験

○大橋知記 1)、石川千里 1)、小股整 2)、佐藤卓也 1,4)、今井信行 3,4)
1)新潟リハビリテーション病院言語聴覚科、2)新潟リハビリテーション病院リハビリテーション科、3)新潟リハビリテーション病院歯科・歯科口腔外科、4)新潟医療福祉大学リハビリテーション学部　言語聴覚科

一般演題：口述 6 脳血管疾患　　第 2 会場　9 月 18 日 10:10～11:20

座長：一場友実（杏林大学）
松下武矢（長崎リハビリテーション病院）

口述 6-1

回復期脳卒中患者の入院時栄養状態が FIM effectiveness に与える影響及び栄養状態に影響する要因の検証

○東野一成 1)、瀧口述弘 1,2)、伊澤優奈 1)、西尾雄介 1)、辻陽子 3)、江木翔平 1)
1)学研都市病院リハビリテーション科、2)畿央大学健康科学部　理学療法学科、3)学研都市病院薬局

口述 6-2

理学療法の実施時間は嚥下障害のある急性期脳卒中患者の嚥下機能改善に貢献するか

○佐藤陽一 1)、阿部貴文 1)
1)新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院リハビリテーション技術科

口述 6-3

急性期脳梗塞患者のサルコペニアが 1 年後の機能予後に及ぼす影響：前向きコホート研究

○近藤心 1,2)、井上達朗 3)、斉藤貴 1)、松田拓 4)、梅村公子 1)、佐藤紀 1)、兼松康久 4)、小野玲 5)、秋末敏宏 2)、高木康志 4)、松浦哲也 1)
1)徳島大学病院リハビリテーション部、2)神戸大学大学院保健学研究科、3)新潟医療福祉大学理学療法学科、4)徳島大学病院脳神経外科、5)国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所，国立健康・栄養研究所身体活動研究部

口述 6-4

急性期脳卒中患者における Phase angel で定義したサルコペニアが退院時の機能的転帰および転帰先に与える影響

○甘粕康太 1,2)、井上達朗 2)、宮村伸 1)、佐藤卓也 1)、大舘隼 2,3)、前川健一郎 2,4)、渡部裕美子 1,5)
1)信楽園病院リハビリテーション科、2)新潟医療福祉大学大学院医療福祉学研究科保健学専攻理学療法学分野、3)獨協医科大学日光医療センターリハビリテーション部、4)神戸リハビリテーション病院リハビリテーション部、5)信楽園病院神経内科

口述 6-5

急性期脳卒中患者の入院時のサルコペニアが長期的な機能予後へ与える影響

○阿部貴文 1)、佐藤陽一 1)、吉村芳弘 2)、長野文彦 2)、松本彩加 2)
1)新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院リハビリテーション技術科、2)熊本リハビリテーション病院サルコペニア・低栄養研究センター

口述 6-6

回復期リハビリテーション病棟における脳卒中患者の栄養摂取率が，FIM 運動項目の改善に寄与する

○内藤翼 1)、川上紗輝 1,2)、諏佐貴大 1)

1)医療法人愛広会　新潟リハビリテーション病院リハビリテーション部、2)新潟医療福祉大学大学院医療福祉学研究科

口述 6-7

急性期脳卒中患者における食欲不振が機能予後に与える影響

○山本実穂 1)、野添匡史 2)、池治璃央 3)、清家はるか 3)、吉田陽亮 4)、庄本康治 5)

1)西大和リハビリテーション病院リハビリテーション部、2)関西医科大学リハビリテーション学部　理学療法学科、3)伊丹恒生脳神経外科病院リハビリテーション部、4)奈良県西和医療センターリハビリテーション部、5)畿央大学大学院健康科学研究科

一般演題：口述 7 症例報告②　　第 2 会場　9 月 18 日 13:00～14:00

座長：最上谷拓磨（聖マリアンナ医科大学）

板垣篤典（東京都立大学）

口述 7-1

喀痰能力および身体機能向上により 3 食経口摂取獲得した進行性核上性麻痺の症例

○宇野勲 1)、大崎琴乃 1)

1)おうちにかえろう。病院リハビリテーション科

口述 7-2

嚥下障害を呈す外来心不全患者に対し多職種介入が誤嚥性肺炎再発予防に有効であった一症例

○甘粕康太 1,2)、井上達朗 2)、熊倉ひとみ 3)、朝妻えり子 1)、長谷川靖 1)、宮村伸 1)、渡部裕美子 1,4)

1)信楽園病院リハビリテーション科、2)新潟医療福祉大学大学院医療福祉学研究科保健学専攻理学療法学分野、3)信楽園病院栄養科、4)信楽園病院神経内科

口述 7-3

慢性期の左副咽頭間隙腫瘍術後患者の嚥下能力の向上に徒手理学療法が有効であった一例

○赤﨑将太 1)、寺川智 1)、齊藤智子 2)

1)熊本リハビリテーション病院リハビリテーション部　理学療法科、2)熊本リハビリテーション病院リハビリテーション科

口述 7-4

超音波画像診断装置を用いた視覚的フィードバックによる嚥下訓練により機能が改善した廃用症候群の一症例

○藤原侑士 1)、浦口愛 1)、辻本依子 2)、古谷英孝 1)、長沼朋佳 3)、大谷研一 4)、星野雅洋 5)

1)苑田第三病院リハビリテーション科、2)苑田第一病院リハビリテーション科、3)苑田第三病院神経内科、4)苑田第三病院内科、5)苑田第三病院整形外科

口述 7-5

嚥下病棟での取り組みにより経口摂取が可能となった一症例

○石川麻衣子 1)

1)阪和第二泉北病院リハビリテーション部

口述 7-6

多職種連携により経口摂取を再開した高齢誤嚥性肺炎患者

○赤岩秀則 1)

1)社会医療法人ペガサス　馬場記念病院リハビリテーション部

一般演題：口述 8 嚥下　　**第 2 会場　9 月 18 日 14:10～15:00**

座長：垣内優芳（神戸市立西神戸医療センター）
横田純一（弘前大学）

口述 8-1

成人の摂食嚥下障害患者に対する栄養管理～エキスパートグループからの提言～

○上島順子 1)、清水昭雄 1)、前田圭介 1)、宇野千晴 1)、白井祐佳 1)、園井みか 1)、本川佳子 1)、江頭文江 1)、栢下淳 1)、工藤美香 1)、小城明子 1)、百崎良 1)

1)Japanese Working Group on Integrated Nutrition for Dysphagic People；JWIND

口述 8-2

COPD モデルラットを用いた嚥下機能の生理学的検証

○那小屋公太 1)、辻村恭憲 1)、真柄仁 1)、井上誠 1)

1)新潟大学大学院医歯学総合研究科摂食嚥下リハビリテーション学分野

口述 8-3

誤嚥性肺炎患者に対する排痰援助を目的とした看護師とのベッドアップ介入の活動報告

○福田達也 1)、朝倉辰弥 1)、山口兼司 1)、小幡裕明 2)、大関里沙 3)

1)医療法人恒仁会新潟南病院リハビリ部、2)医療法人恒仁会新潟南病院リハビリテーション科、3)医療法人恒仁会新潟南病院看護部

口述 8-4

当院集中治療部門における嚥下評価プロトコール作成の試み

○大西伸悟 1)、黒田伸治 1)

1)加古川中央市民病院リハビリテーション室

口述 8-5

多職種で関わる嚥下外来の検査結果と嚥下機能との関連性に関して

○垣内公允 1)

1)医療法人　錦秀会　阪和第二泉北病院リハビリテーション部

一般演題：口述 9 体組成評価　　**第 2 会場　9 月 18 日 15:10～16:20**

座長：紙谷 司（京都大学）
阿部貴文（新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院）

口述 9-1

脆弱性骨折患者における Phase angle が退院時の機能的予後、転帰に与える影響

○伊東祐輔 1)、吉村芳弘 2)、長野文彦 2)、松本彩加 3)、野村心 1)

1)別府リハビリテーションセンターリハビリテーション部、2)熊本リハビリテーション病院サルコペニア・低栄養研究センター、3)熊本リハビリテーション病院薬剤部

口述 9-2

高齢者の身体活動レベルと bioimpedance phase angle の縦断的関連

○上村一貴 1)、紙谷司 2)、岡本啓 3)、山田実 4)

1)大阪公立大学大学院リハビリテーション学研究科、2)京都大学医学部附属病院臨床研究教育・研修部、3)富山県立大学工学部教養教育センター、4)筑波大学人間系

口述 9-3

回復期リハビリテーション病棟の高齢入院患者における位相角の変化量と退院時日常生活動作との関連

○吉池章吾 1)、四十万直起 1,2)、宮下貴弘 1,3)、依田英樹 1)

1)JA 長野厚生連　佐久総合病院理学療法科、2)信州大学大学院医学系研究科、3)弘前大学大学院保健学研究科

口述 9-4

身体各部位の位相角の差異および老年期疾患，運動機能との関係

○本間大介 1,2)、今井教雄 3)、宮坂大 1)、大和萌子 1)、堀米洋二 3)、鈴木勇人 2)、堂前洋一郎 1)、遠藤直人 4)、湊泉 5)

1)新潟万代病院関節再建センター/リハビリテーション科、2)新潟大学大学院医歯学総合研究科　機能医学再建講座　整形外科学分野、3)新潟大学大学院医歯学総合研究科 健康寿命延伸・運動器疾患医学講座、4)新潟県立燕労災病院整形外科、5)新潟臨港病院整形外科

口述 9-5

高齢脊椎圧迫骨折患者の歩行自立と Phase angle のカットオフ値

○栗田恵 1)、藤田貴昭 2)、笠原龍一 1)、山本優一 1)、森下慎一郎 3)

1)北福島医療センターリハビリテーション科、2)福島県立医科大学保健科学部作業療法学科、3)福島県立医科大学保健科学部理学療法学科

口述 9-6

女性高齢者を対象とした身体各部位の位相角の差異および運動機能との関係

○大和萌子 1)、本間大介 1,2)、今井教雄 3)、宮坂大 1)、堀米洋二 3)、鈴木勇人 2)、堂前洋一郎 1)、遠藤直人 4)、湊泉 5)

1)新潟万代病院関節再建センター／リハビリテーション科、2)新潟大学大学院医歯学総合研究科　機能医学再建講座　整形外科学分野、3)新潟大学大学院医歯学総合研究科 健康寿命延伸・運動器疾患医学講座、4)新潟県立燕労災病院整形外科、5)新潟臨港病院整形外科

口述 9-7

リハビリテーション実施前後の身体組成・身体機能と日常生活自立度の経過：サルコペニアに着目した検証

○岩澤里美 1)、岩倉正浩 2)、五十嵐優子 1)、今野るり子 1)、高橋紗佳 1)、久保田光雲 1)、高橋誉都 1)

1)秋田県立リハビリテーション・精神医療センター機能訓練部、2)市立秋田総合病院リハビリテーション科